

目指す学校像 (ミッション)	不登校等、多様な問題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校。
本年度の 重点目標	生徒として望ましい授業態度の育成に努めるとともに、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、「わかる授業」実現をより推進する。 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報種加の一層の充実に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。 生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を高め、規律ある明るい校風づくりを推進する。

年度当初				最終評価(3月)			
番号	評価項目	現状	具体的な方策	評価目標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
	授業改善の取組	授業に集中できていない生徒がいる。 授業に興味・関心・意欲を持ってない生徒がいる。	教科書・ノート・筆記用具等授業に必要な物を必ず持参させる指導を繰り返す。 授業を受けるにふさわしくない態度を取る生徒には、繰り返し指導を行い、改善がみられない場合には、HR担任と当該年次が家庭と連携を図りながら、段階を踏んで指導する。各教科で、授業公開や研修会を通して、教員の共通理解を図り、各科目における基礎・基本を明確化し、指導方法を工夫して、「わかる授業」の展開を推進する。	引き続き教員による「授業実態アンケート調査」の実施。 生徒による「授業アンケート」の実施。 授業態度改善指導を受けた生徒数の把握。	昨年度と同様、9月に「わかる授業」「魅力ある授業」の実現を目指して、研修会を実施した。前もって教員に取ったアンケートと授業実践の紹介を通して、各教員の指導法の改善が図られた。教員の約95%が「 指導方法を工夫してわかる授業を推進できた 」とアンケートに回答。 生徒の授業評価アンケートにおいて、 教員に関する項目 で9項目中7項目において 肯定的評価率が70%程度以上 あり、生徒の実態に即したわかりやすい授業が展開された。 授業への取り組み姿勢が課題がある生徒については、各講座担当者の粘り強い指導と各年次毎の段階的な授業態度改善指導により、真摯な学習態度の育成や好ましい学習雰囲気醸成に効果があった。 教員の74%が「 授業態度改善の効果があった 」とアンケートに回答。 今年度初めての試みとして、定期的に授業公開を行い、教員が相互に授業を参観することで一人一人の指導法の向上が促され、授業改善が着実に進んだ。	B	引き続き、基礎学力の伸長と学習意欲の向上 授業公開の継続 職員研修会の実施 生徒・職員への授業評価アンケートの継続
	開かれた学校づくりの推進	本校の特色や教育種加が広く外部に周知されているとは言えない。特別講座は受講生のニーズに相当程度応えている。	広く、地域の人々に本校の特色や教育活動について理解を深める努力をする。特別講座における現在の高いレベルの維持・継続に努めるとともに、新規特別講座の開設を精査する。 中学校・高校等に継続的に本校の教育成果等を発信し、生徒募集に生かす。 学校評価懇話会委員の提言の反映を図る。	昨年度に引き続き、地域アンケートの実施。 受講生からのアンケート調査と集約。 中学校・高校発着時の配布資料等の改善および発着対象先の精選。 評価懇話会委員による評価。	今年度も特別講座受講者と、新規に中学校の進路指導担当者にアンケートを実施 ...中学校の進路指導担当者へのアンケートは、56中学校に送付し、 22中学校から回答 を得た(回収率32%)。内容については概ね良好で、本校への関心の高さを窺わせた。 ...特別講座受講者からは、 昨年度とほぼ同数の回答 を得て、羽生高校に対するイメージは、昨年度以上に良好であった。また本校が「単位制による定時制」の学校であることが定着してきている。講座の内容についても、 回数面、質ともに満足 をいただいている様子である。リピーターの方が多いということからも、この事が推測される。 中学校向け配布資料の改訂、および高校訪問の改善 ...「 学校案内 」、「 ポスター 」の 構成やデザインの改訂 を行い、また「 羽高だより・トピックス 」を新規に発行することにより、本校の教育活動の特色や生徒の生き生きとした様子を、多方面に訴えかけることができた。この結果、本校の 志願者倍率の向上 につながった(1.01倍/昨年同期0.95倍)。また昨年度から始めた 高校訪問 については、春日部東高校など 5校を新規に訪問 し、本校の求める転編入生像について、他校の理解を一層深めることができた。 昨年度から始まったこの制度における、学校評議員の方々の評価を基に、今年度の評価項目と具体的な方策を策定することができた。 保護者アンケート も実施し、 回答した94%の保護者から子どもを本校に入学させて良かった との回答を得た。	B	情報発信機能の更なる向上 外部への情報提供方法の改善 中学校・高校訪問の継続 外部評価の適切な活用 アンケート調査対象の見直しと新規調査対象の開拓 学校評価懇話会の提言の反映 諸課題の全教職員による共有
	生徒指導・教育相談の充実	基本的な生活習慣が身につけられない生徒がいる。単位制の特色を履き違えて、易きに流れている生徒がいる。対人関係形成能力が十分に身につけていない生徒がいる。	教育種加における職員研修会を通して、生徒の個別指導を充実させるとともに、関係機関との連携を強化する。 履き物及び服装指導を通して、生徒にけじめをつけさせる。 校内内外の巡回を実施して、授業に積極的に取り組む態度を身につけさせる。 あいさつ旅行期間を実施する。 転・編入生に対する指導を充実させる。 特別種加生徒会・部種加の活性化を図る。	けじめ指導・巡回指導の効果。 問題行動の発生件数の把握と分析。 生徒の種加状況調査と集約。	個別相談の実施と生徒に関する情報収集 ... 学校説明会 や 入学説明会 、および 保護者の集い 等で希望者に対して、 個別相談 を実施した。また年次主任を中心に、生徒理解のための年次会を開き、担任や教育相談部が必要とする情報を収集するために、 中学校や医療機関等との連携 を取りながら個別指導に当たった。 結果として 保健室利用者が2割減 、不登校だった生徒の着実な改善が見られた。 登下校時や昼休み、およびクリーン週間時における巡回や通学路清掃などの奉仕活動が、校外での喫煙等の問題行動を未然に防ぐとともに、校外美化や授業の出席率の向上につながった。 問題行動発生件数 ... 昨年度 24件 今年度 19件 (前期 13件 後期 6件) 問題行動での生徒指導人数 ... 昨年度 47人 今年度 35人 (延べ人数) ...問題行動への早期対応により、広がりを防ぐことができた。また後期になると問題行動が激減し、生徒が落ち着いて学校生活を送れる環境が整った。 転編生・過年度生問題行動数 ... 昨年度12件 4件	B	引き続き教育相談の充実 生徒の実態に合わせた職員研修会の実施 関係機関との連携強化 生徒のマナーや基本的な生活習慣の改善 関係機関(警察等)との連携の強化 けじめ・身だしなみ指導 および巡回指導の継続